日商簿記3級
ステップアップ問題集

まえがき

簿記を経理担当者だけが必要とする知識と考えている方が多くいます。しかし、昨今のきびしい経済状況を考えると、企業の経営状態を数値化し、客観的に示すことのできる簿記の技術を身に付けることはビジネスマンにとって必須です。

簿記を学ぶことによって、企業の採算性、コスト管理、さらには、資金繰りといった企業の運営にとって必要な知識を身に付けることができます。また、これを基に、企業が将来進むべき方向性も明確になります。

この簿記の知識を身に付けるため、日本商工会議所が主催する簿記検定試験（通称、日商簿記検定）にチャレンジすることはたいへん有意義なことです。

本書は簿記学習初心者が日商簿記検定３級に合格するための実力を養成することを主眼に作成しました。本書をフルに活用し、本試験問題を確実に解答できる力を身に付けてください。

本書を学習された皆さんが合格することを心よりお祈り申し上げます。

資格の大原 簿記講座

本書の特長

学習効率を上げるため
テーマごとにまとめています。

第1章-1　簿記の学習を始めよう

番号	レベル	内容	問題頁	解答頁
1	基本	簿記の目的	P.4	P.124
2		損益計算書の作成	P.4	P.124
3		貸借対照表の作成	P.4	P.124
4	応用	損益計算書・貸借対照表の作成	P.4	P.124

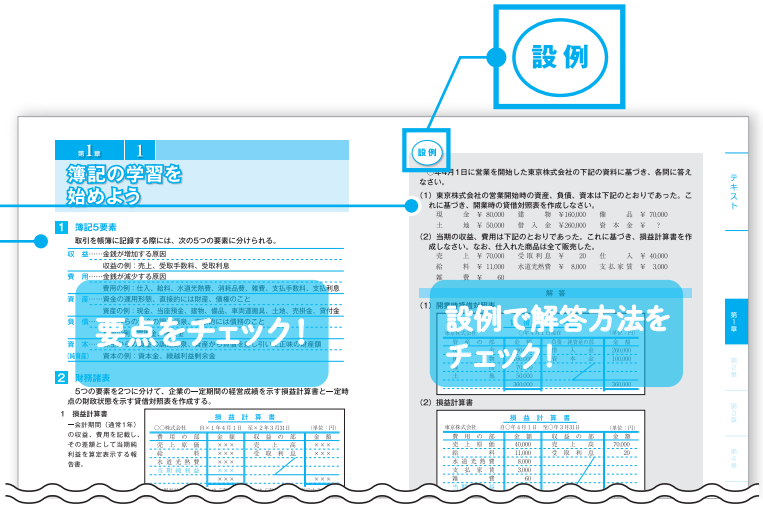
第1章-2　仕訳をマスターしよう

5	基本	仕　訳	P.6	P.125
6	応用	仕　訳	P.7	P.125

INPUT

〔基本知識／解答方法の確認〕

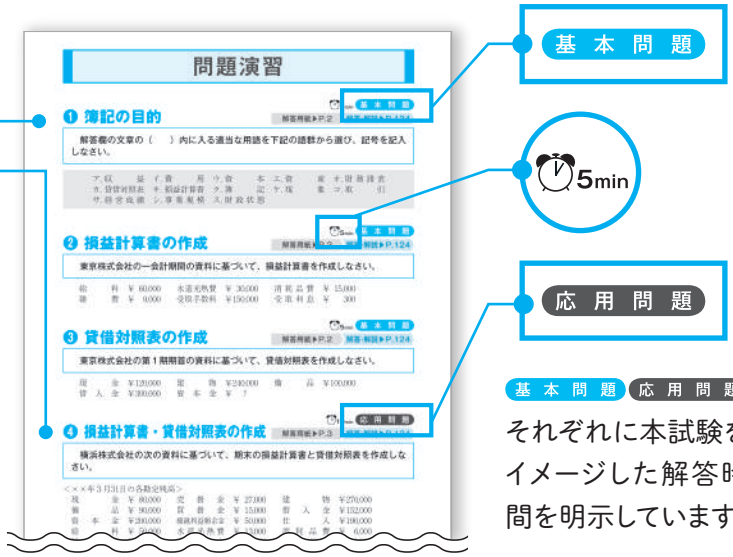
基本的な論点を確認した後、
実際に数値を使い解答方法
を確認します。



OUTPUT

〔基本問題／応用問題を解く〕

基本問題で知識の確認ができたら応用問題で本試験レベルの問題にチャレンジ！



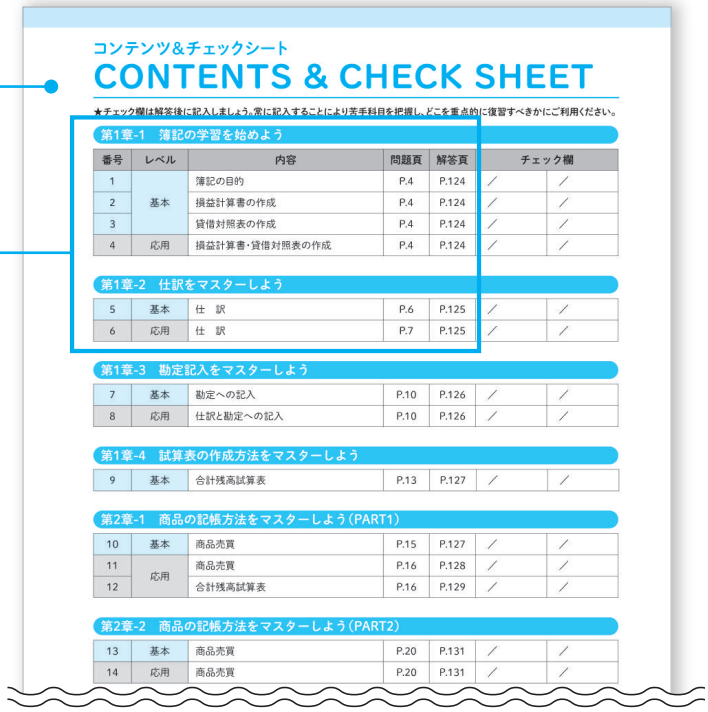
基本問題　応用問題

それぞれに本試験をイメージした解答時間を明示しています。

学習の状況をチェック！

解答の正誤などを常にチェックすることにより、苦手科目や重点的に復習すべき所を把握できます。

● なかなか復習の時間が取れない方は、過去問を解く前に間違えた箇所を再度チェック！



コンテンツ&チェックシート

CONTENTS & CHECK SHEET

★チェック欄は解答後に記入しましょう。常に記入することにより苦手科目を把握し、どこを重点的に復習すべきかにご利用ください。

第1章-1　簿記の学習を始めよう

番号	レベル	内容	問題頁	解答頁	チェック欄	
1	基本	簿記の目的	P.4	P.124	／	／
2		損益計算書の作成	P.4	P.124	／	／
3		貸借対照表の作成	P.4	P.124	／	／
4	応用	損益計算書・貸借対照表の作成	P.4	P.124	／	／

第1章-2　仕訳をマスターしよう

5	基本	仕　訳	P.6	P.125	／	／
6	応用	仕　訳	P.7	P.125	／	／

第1章-3　勘定記入をマスターしよう

7	基本	勘定への記入	P.10	P.126	／	／
8	応用	仕訳と勘定への記入	P.10	P.126	／	／

第1章-4　試算表の作成方法をマスターしよう

9	基本	合計残高試算表	P.13	P.127	／	／

第2章-1　商品の記帳方法をマスターしよう（PART1）

10	基本	商品売買	P.15	P.127	／	／
11	応用	商品売買	P.16	P.128	／	／
12		合計残高試算表	P.16	P.129	／	／

第2章-2　商品の記帳方法をマスターしよう（PART2）

13	基本	商品売買	P.20	P.131	／	／
14	応用	商品売買	P.20	P.131	／	／

解答用紙が！！

抜き取り方式になっており、学習の際に便利です！

● 解き直しには資格の大原書籍販売サイト大原ブックストア内の「解答用紙 DL サービス」をご利用ください！

★ 関連法規改正にいち早く対応

関連法規改正にいち早く対応しています。近年の日本の会計は、頻繁に改正が行われています。それに伴い、現在の会計に沿う内容に修正しておりますので、現行法令等に沿った内容で解答することができます。

日商簿記3級

ステップアップ問題集

問題編

第1章 1

簿記の学習を始めよう

1 簿記5要素

取引を帳簿に記録する際には、次の5つの要素に分けられる。

収　益……金銭が増加する原因
　　収益の例：売上、受取手数料、受取利息

費　用……金銭が減少する原因
　　費用の例：仕入、給料、水道光熱費、消耗品費、雑費、支払手数料、支払利息

資　産……資金の運用形態、直接的には財産、債権のこと
　　資産の例：現金、当座預金、建物、備品、車両運搬具、土地、売掛金、貸付金

負　債……他人からの資金の調達源泉、直接的には債務のこと
　　負債の例：買掛金、借入金

資　本……株主からの資金の調達源泉、資産から負債を差し引いた正味の財産額
(純資産)　資本の例：資本金、繰越利益剰余金

2 財務諸表

5つの要素を2つに分けて、企業の一定期間の経営成績を示す損益計算書と一定時点の財政状態を示す貸借対照表を作成する。

1 損益計算書

一会計期間（通常1年）の収益、費用を記載し、その差額として当期純利益を算定表示する報告書。

損　益　計　算　書

○○株式会社　　自×1年4月1日　至×2年3月31日　　（単位：円）

費用の部	金額	収益の部	金額
売上原価	×××	売上高	×××
給料	×××	受取利息	×××
水道光熱費	×××		
当期純利益	×××		
	×××		×××

（注）損益計算書上、売上は「売上高」、仕入は「売上原価」と表示する。

2 貸借対照表

一定時点（期末）の資産、負債、資本を記載する報告書。なお、資本は純資産の部に記載する。

貸　借　対　照　表

○○株式会社　　×2年3月31日現在　　（単位：円）

資産の部	金額	負債・純資産の部	金額
現金	×××	借入金	×××
売掛金	×××	資本金	×××
建物	×××	繰越利益剰余金	×××
土地	×××		
	×××		×××

（注）貸借対照表上、当期純利益は繰越利益剰余金に加算される。

設例

○年4月1日に営業を開始した東京株式会社の下記の資料に基づき、各問に答えなさい。

（1）東京株式会社の営業開始時の資産、負債、資本は下記のとおりであった。これに基づき、開業時の貸借対照表を作成しなさい。

現　金	￥ 80,000	建　物	￥160,000	備　品	￥ 70,000
土　地	￥ 50,000	借入金	￥260,000	資本金	￥　？

（2）当期の収益、費用は下記のとおりであった。これに基づき、損益計算書を作成しなさい。なお、仕入れた商品は全て販売した。

売　上	￥ 70,000	受取利息	￥　20	仕　入	￥ 40,000
給　料	￥ 11,000	水道光熱費	￥ 8,000	支払家賃	￥ 3,000
雑　費	￥　60				

解　答

（1）開業時貸借対照表

貸借対照表

東京株式会社　　○年４月１日現在　　（単位：円）

資産の部	金額	負債・純資産の部	金額
現　金	80,000	借入金	260,000
建　物	160,000	資本金	100,000
備　品	70,000		
土　地	50,000		
	360,000		360,000

（2）損益計算書

損益計算書

東京株式会社　　自○年４月１日　至○年３月31日　　（単位：円）

費用の部	金額	収益の部	金額
売上原価	40,000	売上高	70,000
給　料	11,000	受取利息	20
水道光熱費	8,000		
支払家賃	3,000		
雑　費	60		
当期純利益	7,960		
	70,020		70,020

解　説

（1）貸借対照表を作成する際には、資産を左側、負債、資本を右側に記載する。最後に左右の合計額の一致を確認して締め切る。

（2）損益計算書は下記の手順で作成する。

1．収益を右側に記載する。なお、売上は「売上高」と表示する。
2．費用を左側に記載する。なお、仕入は「売上原価」と表示する。
3．収益の合計額と費用の合計額の差額を求める。プラスの金額になれば、当期純利益である。これは左側に記入（当期純利益は朱記）する。
　また、マイナスの金額になれば、当期純損失である。これは右側に記入（当期純損失は朱記）する。
4．最後に左右の合計額の一致を確認して、締切りを行う。

問題演習

❶ 簿記の目的

5min 基本問題

解答用紙▶P.2　解答・解説▶P.124

解答欄の文章の（　　）内に入る適当な用語を下記の語群から選び、記号を記入しなさい。

ア. 収益　イ. 費用　ウ. 資本　エ. 資産　オ. 財務諸表
カ. 貸借対照表　キ. 損益計算書　ク. 簿記　ケ. 現象　コ. 取引
サ. 経営成績　シ. 事業規模　ス. 財政状態

❷ 損益計算書の作成

5min 基本問題

解答用紙▶P.2　解答・解説▶P.124

東京株式会社の一会計期間の資料に基づいて、損益計算書を作成しなさい。

給料	¥ 60,000	水道光熱費	¥ 30,000	消耗品費	¥ 15,000
雑費	¥ 9,000	受取手数料	¥150,000	受取利息	¥ 300

❸ 貸借対照表の作成

5min 基本問題

解答用紙▶P.2　解答・解説▶P.124

東京株式会社の第１期期首の資料に基づいて、貸借対照表を作成しなさい。

現金	¥120,000	建物	¥240,000	備品	¥100,000
借入金	¥300,000	資本金	¥ ?		

❹ 損益計算書・貸借対照表の作成

10min 応用問題

解答用紙▶P.3　解答・解説▶P.124

横浜株式会社の次の資料に基づいて、期末の損益計算書と貸借対照表を作成しなさい。

＜×××年３月31日の各勘定残高＞

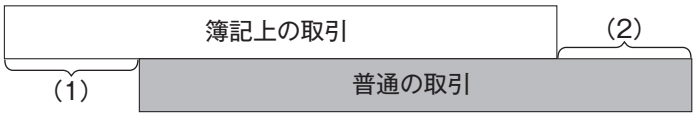
現金	¥ 80,000	売掛金	¥ 27,000	建物	¥270,000
備品	¥ 90,000	買掛金	¥ 15,000	借入金	¥152,000
資本金	¥200,000	繰越利益剰余金	¥ 50,000	仕入	¥190,000
給料	¥ 50,000	水道光熱費	¥ 13,000	消耗品費	¥ 6,000
雑費	¥ 2,000	売上	¥310,000	受取利息	¥ 1,000

なお、繰越利益剰余金勘定残高の¥50,000は、当期純利益を加算する前の金額である。

仕訳をマスターしよう

1 取　　引

簿記上の取引は資産、負債、資本、収益、費用の増減変化をもたらすものである。



（1）店舗が火災で焼失した。商品が盗難に遭った。
★一般的に取引とはいわないが、資産等の増減を伴う➔ ∴ 簿記上の取引

（2）取引先と契約を交わした。
★一般的には取引というが、単に契約を結んだだけでは、資産等の増減を伴わない➔
∴ 簿記上の取引ではない

2 帳簿への記入手順

帳簿への記入手順は次のとおりになる。

3 仕　　訳

仕訳とは、取引を発生した日付順に帳簿に記入することをいう。その記入方法は次のようになる。

（借方科目）	金　額	（貸方科目）	金　額

★1　勘定の左側を「借方」、右側を「貸方」という。
★2　借方金額と貸方金額は同額となる。（貸借平均の原則）

〔仕訳の法則〕
仕訳は、次の法則に従って行う。

借方に仕訳されるもの	貸方に仕訳されるもの
資産の増加	資産の減少
負債の減少	負債の増加
資本の減少	資本の増加
費用の発生	収益の発生

設例

次の取引の仕訳を行いなさい。なお、簿記上の取引に該当しない場合は「仕訳不要」と記入すること。

２月５日　備品￥50,000を購入し、代金は現金で支払った。
　　12日　現金￥120,000をＡ銀行から借り入れた。
　　20日　大阪商店と商品の仕入れに関して契約を結んだ。
　　24日　水道光熱費￥4,000を現金で支払った。
　　28日　京都商店より手数料￥30,000を現金で受け取った。

解　答

日　付	借　方　科　目	金　　額	貸　方　科　目	金　　額
2／5	備　　品	50,000	現　　金	50,000
12	現　　金	120,000	借　入　金	120,000
20	仕　訳　不　要			
24	水 道 光 熱 費	4,000	現　　金	4,000
28	現　　金	30,000	受 取 手 数 料	30,000

解　説

仕訳の法則に沿って説明する。なお、仕訳の借方、貸方の金額は必ず一致する。

２月５日　借方（備　　品）は資産の増加、貸方（現　　金）は資産の減少
　　12日　借方（現　　金）は資産の増加、貸方（借　入　金）は負債の増加
　　20日　単に契約を結んだだけでは、資産等の増減が生じないため、簿記上の取引とはならない。よって、仕訳は行わない。
　　24日　借方（水道光熱費）は費用の発生、貸方（現　　金）は資産の減少
　　28日　借方（現　　金）は資産の増加、貸方（受取手数料）は収益の発生

問題演習

5min　基本問題

❺ 仕　　訳

解答用紙▶P.3　解答・解説▶P.125

次の取引の仕訳を行いなさい。

３月５日　車両運搬具￥300,000を購入し、代金は現金で支払った。
　　12日　現金￥600,000をＡ銀行より借り入れた。
　　25日　従業員の給料￥160,000を現金で支給した。
　　31日　梅田社より手数料￥45,000を現金で受け取った。

❻ 仕　　訳

解答用紙▶P.4　解答・解説▶P.125

次の取引の仕訳を行いなさい。勘定科目は次の中から最も適当と思われるものを選ぶこと。

現　　金	貸 付 金	備　　品	借 入 金
資 本 金	給　　料	消耗品費	水道光熱費
支払手数料	支 払 利 息	受取手数料	受 取 利 息

4月2日　現金￥100,000を難波商店に貸し付けた。
　　5日　備品￥250,000を購入し、代金は現金で支払った。
　　12日　A銀行からの借入金￥50,000を返済し、その利息￥200とともに現金で支払った。
　　18日　水道代￥5,000を現金で支払った。
　　20日　甲文具店より、事務用消耗品￥7,600を購入し、代金は現金で支払った。
　　25日　従業員の給料￥171,000を現金で支給した。
　　27日　奈良商店より手数料￥53,000を現金で受け取った。
5月7日　難波商店に対する貸付金￥100,000を回収し、その利息￥250とともに現金で受け取った。

第1章　3

勘定記入をマスターしよう

1　帳簿への記入手順

取引に基づき仕訳を行った後、その仕訳に基づき、各勘定に記入する。これを「転記」という。

2　各勘定へ記入することの意味

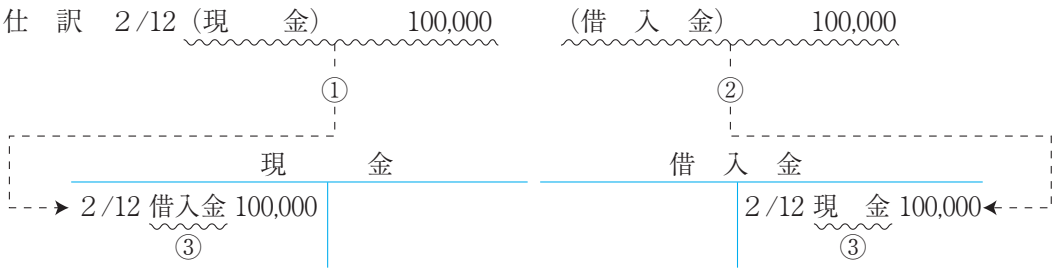
仕訳は日々の取引を日付順に記入するもので、いわば、「日記帳」の役割を果たすものである。しかし、仕訳だけでは、現金の残高がいくらあるのか、売上の総額がいくらかといったことがわからない。

そこで、各勘定ごとの残高等を把握するために各勘定への転記が行われる。

3　勘定への記入方法

各勘定への記入については、下記の例を参照すること。

（例）２月12日　現金￥100,000をＡ銀行から借り入れた。



★①　仕訳の借方側、現金￥100,000は現金という資産の増加となる。よって、現金勘定の借方に転記する。

②　仕訳の貸方側、借入金￥100,000は借入金という負債の増加となる。よって、借入金勘定の貸方に転記する。

③　現金勘定の借入金、借入金勘定の現金は仕訳を行った際の相手勘定科目である。
これは勘定をみて、その取引内容の詳細を明らかにするためである。
例えば、現金勘定２月12日の増加は銀行からの借り入れによるものであることが、仕訳の相手勘定科目を記入することによって明確になるのである。

設例

次の仕訳を各勘定に転記しなさい。

2月12日	（現　　金）	120,000	（借　入　金）	120,000
24日	（水道光熱費）	4,000	（現　　金）	4,000
28日	（借　入　金）	50,000	（現　　金）	50,200
	（支払利息）	200		

解　答

現　　金

2/12	借入金	120,000	2/24 水道光熱費 4,000
			28 諸　口 50,200

借　入　金

2/28	現　金	50,000	2/12 現　金 120,000

水道光熱費

2/24	現　金	4,000	

支払利息

2/28	現　金	200	

解　説

2月28日の転記を行う際の相手勘定科目の記入方法について説明する。
まず、仕訳と転記の関係については次のとおりである。

28日	（借　入　金）	50,000	（現　　金）	50,200
	（支払利息）	200		

借　入　金

2/28	現　金 ①	50,000	

現　　金

			2/28 諸　口 ② 50,200

支払利息

2/28	現　金 ①	200	

①仕訳の借方側に対する貸方側の相手勘定科目は現金となるため、相手勘定科目は現金と記入する。

②仕訳の貸方側に対する借方側の相手勘定科目は借入金と支払利息の２つの勘定科目である。このため、諸々の勘定口座という意味の「諸口（しょくち）」と記入する。

問題演習

5min 基本問題

❼ 勘定への記入

解答用紙▶P.4　解答・解説▶P.126

次の仕訳を各勘定に転記しなさい。

3月1日	（現　　金）	700,000	（借　入　金）	700,000
25日	（給　　料）	160,000	（現　　金）	160,000
31日	（現　　金）	45,000	（受取手数料）	45,000

15min 応用問題

❽ 仕訳と勘定への記入

解答用紙▶P.4　解答・解説▶P.126

次の取引の仕訳を行い、各勘定口座に転記しなさい。勘定科目は次の中から最も適当と思われるものを選ぶこと。

現　金	車両運搬具	備　品	借入金	資本金
給　料	水道光熱費	広告宣伝費	支払利息	受取手数料

6月5日　オフィス用の備品￥70,000を購入し、代金は現金で支払った。
12日　A銀行から￥300,000を借り入れ、その利息￥4,000が差し引かれ、￥296,000を現金で受け取った。
18日　電気代￥11,000を現金で支払った。
20日　乙広告社に新聞広告を依頼し、その代金￥30,000を現金で支払った。
25日　従業員の給料￥280,000を現金で支給した。
27日　札幌商店より手数料￥43,000を現金で受け取った。

試算表の作成方法をマスターしよう

1 試算表までの作成手順

仕訳は各勘定に転記されるが、この転記が正しいかどうかを検証するために、各勘定の合計額や残高を1つの表に集計する。これを試算表という。試算表には、合計試算表、残高試算表、合計残高試算表の3つの種類がある。

取　引 → 仕　訳 → 勘定への記入 → 試 算 表

2 試算表の作成方法

試算表が3種類あることは上で述べた。ここでは、その代表例として、合計残高試算表の作成方法を説明する。合計残高試算表の作成方法をマスターできれば、合計試算表、残高試算表の作成はむずかしくない。

下記の例を確認していただきたい。

（例）各勘定の内訳

現　金

	300,000	2/ 5	50,000
2/12	120,000	25	10,000
28	26,000	27	10,300

備　品

2/ 5	50,000		

給　料

2/25	10,000		

借　入　金

2/27	10,000	2/12	120,000

資　本　金

			300,000

受取手数料

		2/28	26,000

支 払 利 息

2/27	300		

合 計 残 高 試 算 表

×１年２月28日　（単位：円）

借方 残高	借方 合計	勘定科目	貸方 合計	貸方 残高
375,700	446,000	現金	70,300	
50,000	50,000	備品		
	10,000	借入金	120,000	110,000
		資本金	300,000	300,000
		受取手数料	26,000	26,000
10,000	10,000	給料		
300	300	支払利息		
436,000	516,300		516,300	436,000

（注）１．矢印は各勘定から合計残高試算表に金額を書き写す手順を示している。
２．残高欄の金額は、合計欄の貸借の差引きで求められた差額を記入する。
３．合計欄、残高欄の最終合計の貸借は一致する。
合計欄の最終合計金額は仕訳帳の合計額に一致する。

設例

次の各勘定に基づき、合計試算表と残高試算表を作成しなさい。

現金	
300,000	50,000
100,000	4,000
30,000	10,000
	8,200

借入金	
8,000	100,000

資本金	
	250,000

備品	
50,000	

繰越利益剰余金	
	50,000

給料	
10,000	

受取手数料	
	30,000

支払利息	
200	

水道光熱費	
4,000	

解答

合計試算表

×年×月×日　（単位：円）

借方	勘定科目	貸方
430,000	現金	72,200
50,000	備品	
8,000	借入金	100,000
	資本金	250,000
	繰越利益剰余金	50,000
	受取手数料	30,000
10,000	給料	
4,000	水道光熱費	
200	支払利息	
502,200		502,200

残高試算表

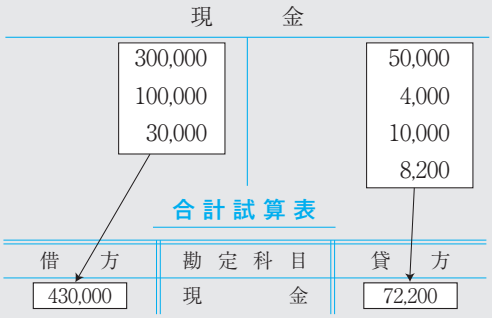
×年×月×日　（単位：円）

借方	勘定科目	貸方
357,800	現金	
50,000	備品	
	借入金	92,000
	資本金	250,000
	繰越利益剰余金	50,000
	受取手数料	30,000
10,000	給料	
4,000	水道光熱費	
200	支払利息	
422,000		422,000

解説

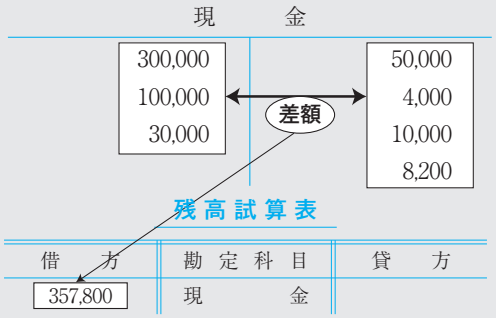
1．合計試算表の作成手順は次のとおりである。

各勘定の借方合計、貸方合計を合計試算表の借方金額欄、貸方金額欄に記入する。なお、合計試算表の借方合計金額と貸方合計金額は一致し、仕訳帳の合計額と一致する。また、現金勘定についてのみ図解すると次のようになる。



2．残高試算表の作成手順は次のとおりである。

残高試算表の金額欄は各勘定の差額を記入する。なお、残高試算表の借方合計金額と貸方合計金額は一致する。また、現金勘定についてのみ図解すると次のようになる。



問題演習

10min 基本問題

❾ 合計残高試算表

解答用紙▶P.5　解答・解説▶P.127

次の勘定口座に基づき、6月30日の合計残高試算表を作成しなさい。

現金	
500,000	70,000
296,000	80,000
2,000	3,000
400,000	240,000
	60,000
	5,200
	4,100

備品	
70,000	

車両運搬具	
80,000	

借入金	
	300,000

資本金	
	480,000

繰越利益剰余金	
	20,000

売上	
	400,000

受取手数料	
	2,000

仕入	
240,000	

給料	
60,000	

水道光熱費	
4,100	

消耗品費	
5,200	

広告宣伝費	
3,000	

支払利息	
4,000	

第2章 1

商品の記帳方法をマスターしよう（PART1）

1 三分割法による商品売買の記帳

商品売買の記帳方法にはさまざまなものがあるが、一般に用いられているのは三分割法である。

三分割法とは、商品売買を繰越商品、仕入および売上の3つの勘定に分けて処理する方法である。（繰越商品勘定については第5章－1で解説する）

2 商品売買の記帳

1　商品を掛けで仕入れた場合（掛けとは、信用で売買すること）

仕　訳：（仕　　入）　××　（買　掛　金）　××

★仕入は費用勘定、買掛金は負債勘定

2　商品を掛けで販売した場合

仕　訳：（売　掛　金）　××　（売　　上）　××

★売上は収益勘定、売掛金は資産勘定

3 商品の返品の記帳

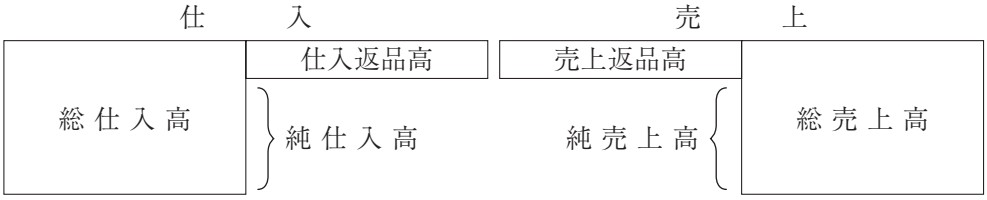
1　仕入れた商品を返品した場合

仕　訳：（買　掛　金）　××　（仕　　入）　××

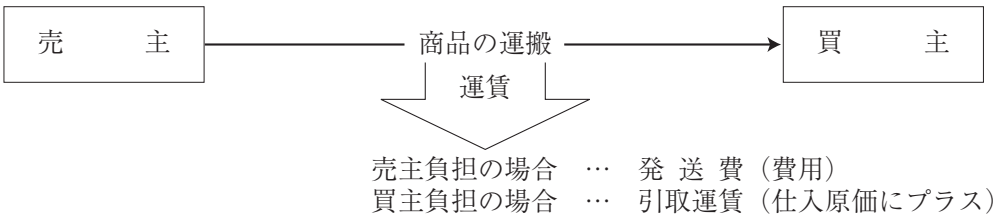
2　販売した商品が返品された場合

仕　訳：（売　　上）　××　（売　掛　金）　××

〔勘定の内容〕



4 運賃の取り扱い



5 商品の仕入原価

仕入原価 ＝ 購入代金 ＋ 付随費用（引取運賃など）

設例

次の一連の取引の仕訳を行いなさい。

1月12日　福岡商店より商品￥60,000を仕入れ、代金は掛けとした。なお、運送会社に対し、引取運賃￥1,400を現金で支払った。
18日　小倉商会に商品を￥90,000で売り渡し、代金は掛けとした。また、その際の発送費￥2,000（当方負担）を現金で支払った。
24日　小倉商会に売り渡した商品の一部に品違いがあったため、￥3,000返品された。

解　答

日　付	借　方　科　目	金　　額	貸　方　科　目	金　　額
1/12	仕　　入	61,400	買　掛　金	60,000
			現　　金	1,400
18	売　掛　金	90,000	売　　上	90,000
	発　送　費	2,000	現　　金	2,000
24	売　　上	3,000	売　掛　金	3,000

解　説

商品を仕入れた際に生ずる買掛金は、将来仕入先に代金を支払う義務（債務）である。よって、負債となる。一方、商品を販売した際に生ずる売掛金は、得意先から代金を受け取る権利（債権）である。よって、資産となる。
1月12日　仕入勘定の金額は商品の購入代金￥60,000に引取運賃￥1,400をプラスした￥61,400となる。
18日　当方負担の発送費は当社の費用となる。
24日　返品があった場合は、販売時の反対仕訳となる。

問題演習

5min　基本問題

⑩ 商品売買

解答用紙▶P.6　解答・解説▶P.127

次の一連の取引の仕訳を行い、各勘定に転記しなさい。また、当月総売上高、当月返品高、当月純売上高を計算しなさい。

1月5日　商品￥116,000を仕入れ、代金は掛けとした。なお、引取運賃￥4,000は現金で支払った。
14日　商品を￥197,000で売り渡し、代金は掛けとした。
29日　14日に売り渡した商品の一部￥2,000が品違いのため、返品されてきた。

10min 応用問題

⑪ 商品売買

解答用紙▶P.6　解答・解説▶P.128

次の一連の取引の仕訳を行いなさい。勘定科目は次の中から最も適当と思われるものを選ぶこと。

現　金	売掛金	備　品	買掛金
借入金	仕　入	発送費	売　上

2月4日　熊本商店より商品甲￥320,000を仕入れ、代金のうち、￥100,000を現金で支払い、残額は掛けとした。なお、商品の引取運賃および運送保険料￥8,400は現金で支払った。

8日　鹿児島商店に商品甲を￥156,000で売り渡し、代金のうち￥56,000を現金で受け取り、残額は掛けとした。なお、この商品の発送運賃￥5,400は現金で支払った。

15日　4日に仕入れた商品甲の一部に品違いがあったため、￥4,000を返品し、代金は買掛金から控除された。

18日　8日に売り上げた商品甲のうち￥12,000が品違いのため返品され、代金は売掛金から控除した。

20日　長崎商会に商品乙￥278,500を販売し、送料￥1,500を加えた合計￥280,000は掛けとした。なお、この商品の発送運賃￥1,500は現金で支払った。

25min 応用問題

⑫ 合計残高試算表

解答用紙▶P.7　解答・解説▶P.129

次の2月中の取引の仕訳を行い、さらに1月31日の合計残高試算表を考慮して、2月28日の合計残高試算表を作成しなさい。

合計残高試算表

××年1月31日　（単位：円）

借方 残高	借方 合計	勘定科目	貸方 合計	貸方 残高
175,000	345,000	現金	170,000	
133,000	190,000	売掛金	57,000	
12,000	12,000	繰越商品		
	47,000	買掛金	182,000	135,000
		資本金	250,000	250,000
		繰越利益剰余金	50,000	50,000
	2,000	売上	90,000	88,000
81,000	88,000	仕入	7,000	
60,000	60,000	給料		
50,000	50,000	水道光熱費		
3,000	3,000	発送費		
9,000	9,000	雑費		
523,000	806,000		806,000	523,000

２月１日　商品￥24,000を仕入れ、代金は掛けとした。なお、商品の引取運賃および運送保険料￥1,000は現金で支払った。
５日　商品￥36,000を売り上げ、代金のうち￥6,000は現金で受け取り、残額は掛けとした。なお、この商品の発送運賃（当方負担）￥1,100は現金で支払った。
７日　１日に仕入れた商品の一部に品違いがあったため、￥2,000返品した。
９日　商品￥53,000を売り上げ、代金は掛けとした。なお、この商品の発送運賃（当方負担）￥1,300は現金で支払った。
13日　５日に売り上げた商品のうち￥5,000が品違いのため返品され、代金は売掛金から控除した。
16日　商品￥49,000を仕入れ、代金のうち￥10,000は現金で支払い、残額は掛けとした。
18日　９日に売り上げた商品のうち一部が汚損のため、￥800返品された。
20日　売掛金のうち￥100,000を現金で受け取った。
21日　１月分の水道光熱費￥50,000と諸雑費￥5,000を現金で支払った。
23日　16日に仕入れた商品のうち￥8,000を品違いのため返品し、代金は買掛金から控除された。
25日　２月分の給料￥60,000を現金で支払った。
26日　商品￥17,000を売り上げ、代金は現金で受け取った。
28日　買掛金のうち￥80,000を現金で支払った。

日商簿記3級

ステップアップ問題集

解答・解説編

❶ 簿記の目的

テキスト▶P.4

1.（**ク：簿記**）とは、企業の（**コ：取引**）を帳簿に記入する技術のことである。企業はこの帳簿に基づき、一定期間の（**サ：経営成績**）を明らかにする（**キ：損益計算書**）と一定期日の（**ス：財政状態**）を明らかにする（**カ：貸借対照表**）を作成する。
2.（**キ：損益計算書**）は、（**ア：収益**）と（**イ：費用**）を対比させ、当期純利益を表示する。
3.（**カ：貸借対照表**）は、（**エ：資産**）と負債および（**ウ：資本**）を記載する。

❷ 損益計算書の作成

テキスト▶P.4

損　益　計　算　書

東京株式会社　　自××年４月１日　至××年３月31日　　（単位：円）

費用の部	金額	収益の部	金額
給料	60,000	受取手数料	150,000
水道光熱費	30,000	受取利息	300
消耗品費	15,000		
雑費	9,000		
当期純利益	36,300		
	150,300		150,300

解説　当期純利益の計算

$$\underbrace{(¥150{,}000 + ¥300)}_{\text{収益の部合計}} - \underbrace{(¥60{,}000 + ¥30{,}000 + ¥15{,}000 + ¥9{,}000)}_{\text{費用の部合計}} = ¥36{,}300$$

❸ 貸借対照表の作成

テキスト▶P.4

貸　借　対　照　表

東京株式会社　　××年４月１日現在　　（単位：円）

資産の部	金額	負債・純資産の部	金額
現金	120,000	借入金	300,000
建物	240,000	資本金	160,000
備品	100,000		
	460,000		460,000

解説　資本金の計算　$\underbrace{(¥120{,}000 + ¥240{,}000 + ¥100{,}000)}_{\text{資産の部合計}} - \underbrace{¥300{,}000}_{\text{負債の部合計}} = ¥160{,}000$

❹ 損益計算書・貸借対照表の作成

テキスト▶P.4

損　益　計　算　書

横浜株式会社　　自××年４月１日　至××年３月31日　　（単位：円）

費用の部	金額	収益の部	金額
売上原価	190,000	売上高	310,000
給料	50,000	受取利息	1,000
水道光熱費	13,000		
消耗品費	6,000		
雑費	2,000		
当期純利益	50,000		
	311,000		311,000

貸借対照表

横浜株式会社　　××年３月31日現在　　(単位：円)

資産の部	金額	負債・純資産の部	金額
現金	80,000	買掛金	15,000
売掛金	27,000	借入金	152,000
建物	270,000	資本金	200,000
備品	90,000	繰越利益剰余金	100,000
	467,000		467,000

解説

当期純利益の計算

$\underbrace{(¥310,000 + ¥1,000)}_{\text{収益の部合計}} - \underbrace{(¥190,000 + ¥50,000 + ¥13,000 + ¥6,000 + ¥2,000)}_{\text{費用の部合計}}$

＝¥50,000

繰越利益剰余金の計算

問題資料に示されている¥50,000に当期純利益の¥50,000を加算して求める。

❺ 仕　訳

テキスト▶P.6

日付	借方科目	金額	貸方科目	金額
3／5	車両運搬具	300,000	現金	300,000
12	現金	600,000	借入金	600,000
25	給料	160,000	現金	160,000
31	現金	45,000	受取手数料	45,000

❻ 仕　訳

テキスト▶P.7

日付	借方科目	金額	貸方科目	金額
4／2	貸付金	100,000	現金	100,000
5	備品	250,000	現金	250,000
12	借入金	50,000	現金	50,200
	支払利息	200		
18	水道光熱費	5,000	現金	5,000
20	消耗品費	7,600	現金	7,600
25	給料	171,000	現金	171,000
27	現金	53,000	受取手数料	53,000
5／7	現金	100,250	貸付金	100,000
			受取利息	250

❼ 勘定への記入

テキスト▶P.10

現　金

3/1	借入金	700,000	3/25	給料	160,000
31	受取手数料	45,000			

借入金

			3/1	現金	700,000

給　料

3/25	現金	160,000			

受取手数料

			3/31	現金	45,000

❽ 仕訳と勘定への記入

テキスト▶P.10

日付	借方科目	金額	貸方科目	金額
6/5	備品	70,000	現金	70,000
12	現金	296,000	借入金	300,000
	支払利息	4,000		
18	水道光熱費	11,000	現金	11,000
20	広告宣伝費	30,000	現金	30,000
25	給料	280,000	現金	280,000
27	現金	43,000	受取手数料	43,000

現　金

		500,000	6/5	備品	70,000
6/12	借入金	296,000	18	水道光熱費	11,000
27	受取手数料	43,000	20	広告宣伝費	30,000
			25	給料	280,000

備　品

6/5	現金	70,000			

借入金

			6/12	諸口	300,000

支払利息

6/12	借入金	4,000			

受取手数料

			6/27	現金	43,000

給　料

6/25	現金	280,000			

水道光熱費

6/18	現金	11,000			

広告宣伝費

6/20	現金	30,000			

❾ 合計残高試算表

テキスト▶P.13

合 計 残 高 試 算 表

×1年6月30日

（単位：円）

借方 残高	借方 合計	勘定科目	貸方 合計	貸方 残高
735,700	1,198,000	現金	462,300	
70,000	70,000	備品		
80,000	80,000	車両運搬具		
		借入金	300,000	300,000
		資本金	480,000	480,000
		繰越利益剰余金	20,000	20,000
		売上	400,000	400,000
		受取手数料	2,000	2,000
240,000	240,000	仕入		
60,000	60,000	給料		
4,100	4,100	水道光熱費		
5,200	5,200	消耗品費		
3,000	3,000	広告宣伝費		
4,000	4,000	支払利息		
1,202,000	1,664,300		1,664,300	1,202,000

❿ 商品売買

テキスト▶P.15

日付	借方科目	金額	貸方科目	金額
1/5	仕入	120,000	買掛金	116,000
			現金	4,000
14	売掛金	197,000	売上	197,000
29	売上	2,000	売掛金	2,000

仕入

1/5	諸口	120,000	

売上

1/29	売掛金	2,000	1/14	売掛金	197,000

当月総売上高 ¥ 197,000　　当月返品高 ¥ 2,000　　当月純売上高 ¥ 195,000

解説 当月純売上高は、当月総売上高から売上返品を差し引いて計算される。
当月純売上高の計算　¥197,000－¥2,000＝¥195,000

⓫ 商品売買

テキスト▶P.16

日付	借方科目	金額	貸方科目	金額
2/4	仕入	328,400	買掛金	220,000
			現金	108,400
8	現金	56,000	売上	156,000
	売掛金	100,000		
	発送費	5,400	現金	5,400
15	買掛金	4,000	仕入	4,000
18	売上	12,000	売掛金	12,000
20	売掛金	280,000	売上	280,000
	発送費	1,500	現金	1,500

⓬ 合計残高試算表

テキスト▶P.16

日付	借方科目	金額	貸方科目	金額
2/1	仕入	25,000	買掛金	24,000
			現金	1,000
5	現金	6,000	売上	36,000
	売掛金	30,000		
	発送費	1,100	現金	1,100
7	買掛金	2,000	仕入	2,000
9	売掛金	53,000	売上	53,000
	発送費	1,300	現金	1,300
13	売上	5,000	売掛金	5,000
16	仕入	49,000	現金	10,000
			買掛金	39,000
18	売上	800	売掛金	800
20	現金	100,000	売掛金	100,000
21	水道光熱費	50,000	現金	55,000
	雑費	5,000		
23	買掛金	8,000	仕入	8,000
25	給料	60,000	現金	60,000
26	現金	17,000	売上	17,000
28	買掛金	80,000	現金	80,000

合計残高試算表

××年2月28日　　(単位：円)

借方 残高	借方 合計	勘定科目	貸方 合計	貸方 残高
89,600	468,000	現金	378,400	
110,200	273,000	売掛金	162,800	
12,000	12,000	繰越商品		
	137,000	買掛金	245,000	108,000
		資本金	250,000	250,000
		繰越利益剰余金	50,000	50,000
	7,800	売上	196,000	188,200
145,000	162,000	仕入	17,000	
120,000	120,000	給料		
100,000	100,000	水道光熱費		
5,400	5,400	発送費		
14,000	14,000	雑費		
596,200	1,299,200		1,299,200	596,200

解説　2月5日および9日の仕訳において、発送費が当方負担と指示されている。このような指示の場合には発送費勘定で処理する。

合計残高試算表の作成は、仕訳→勘定記入→試算表という手順で解答するのが望ましいが、このような総合問題をできるだけ速く解答するためには、仕訳→電卓による各勘定の金額集計という手順で解答する。

また、合計残高試算表の解答手順を示すと以下のとおりである。

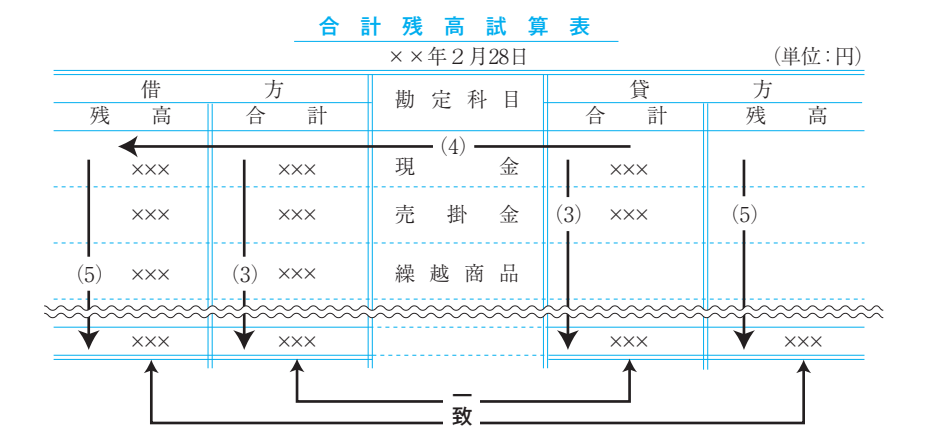
(1) 当月の月中取引を仕訳する。

(2) 上記の仕訳の同一科目ごとに借方と貸方それぞれの合計金額を計算し、合計残高試算表の合計欄に記入する。なお、前月までの資料（各勘定の金額）が与えられている場合には、それも含めた合計金額を合計残高試算表の合計欄に記入する。

(3) 借方合計欄と貸方合計欄への記入が完了したならば、各々の合計額を計算し、貸借合計金額の一致を確かめる。

(4) 同一勘定科目ごとに借方合計欄と貸方合計欄に記入した金額を比較し、多い側（借方残高欄または貸方残高欄）にその差額を記入する。

(5) 借方残高欄および貸方残高欄への記入が完了したならば、各々の合計額を計算し、貸借合計金額の一致を確かめる。

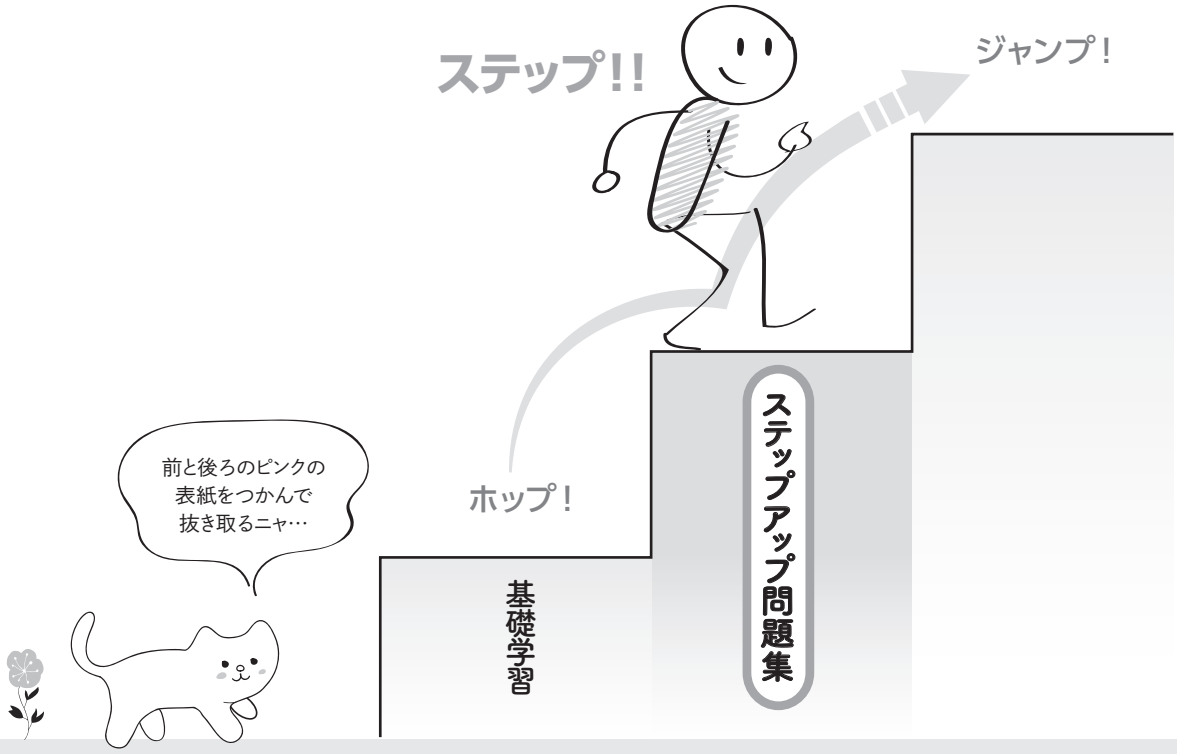


なお、現金勘定で一例を示すので、その他の勘定についても同様に解答する。

現金勘定借方合計　￥345,000＋￥6,000＋￥100,000＋￥17,000＝￥468,000
現金勘定貸方合計　￥170,000＋￥1,000＋￥1,100＋￥1,300＋￥10,000
＋￥55,000＋￥60,000＋￥80,000＝￥378,400
現金勘定残高　￥468,000－￥378,400＝￥89,600（借方残高）

日商簿記3級

ステップアップ問題集



解答用紙

本気になったら大原

大原出版

CONTENTS

1 簿記の目的 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P.2
2 損益計算書の作成 ・・・・・・・・・・・・・・・ P.2
3 貸借対照表の作成 ・・・・・・・・・・・・・・・ P.2
4 損益計算書・貸借対照表の作成 ・・・・・・ P.3
5 仕　訳 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P.3
6 仕　訳 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P.4
7 勘定への記入 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P.4
8 仕訳と勘定への記入 ・・・・・・・・・・・・・・ P.4
9 合計残高試算表 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ P.5
10 商品売買 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P.6
11 商品売買 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P.6
12 合計残高試算表 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ P.7
13 商品売買 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P.8
14 商品売買 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P.9
15 現金および現金過不足 ・・・・・・・・・・・・ P.9
16 現金および現金過不足 ・・・・・・・・・・・・ P.9
17 普通預金 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P.10
18 当座預金・当座借越 ・・・・・・・・・・・・・・ P.10
19 当座預金・当座借越 ・・・・・・・・・・・・・・ P.10
20 約束手形 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P.11
21 約束手形 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P.11
22 電子記録債権・債務 ・・・・・・・・・・・・・・ P.12
23 電子記録債権・債務 ・・・・・・・・・・・・・・ P.12
24 有形固定資産 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P.12
25 その他の債権・債務 ・・・・・・・・・・・・・・ P.12
26 その他の債権・債務 ・・・・・・・・・・・・・・ P.13
27 収益勘定・費用勘定 ・・・・・・・・・・・・・・ P.13
28 収益勘定・費用勘定 ・・・・・・・・・・・・・・ P.14
29 株式会社の資本 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ P.14
30 消費税 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P.14
31 訂正仕訳 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P.15
32 訂正仕訳 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P.15
33 総まとめ1 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P.15
34 総まとめ2 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P.16
35 総まとめ3 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P.16
36 補助簿の相関関係 ・・・・・・・・・・・・・・・ P.17
37 当座預金出納帳 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ P.17
38 小口現金 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P.17
39 小口現金出納帳 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ P.18
40 小口現金出納帳 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ P.18
41 受取手形記入帳 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ P.19
42 支払手形記入帳 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ P.19
43 受取手形記入帳 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ P.20
44 手形記入帳 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P.20
45 買掛金元帳 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P.20
46 売掛金元帳 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P.21
47 仕入帳 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P.22
48 仕入帳 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P.22
49 商品有高帳 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P.22
50 商品有高帳 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P.23
51 商品有高帳 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P.24
52 商品有高帳 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P.25
53 固定資産台帳 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P.25
54 合計残高試算表 ・・・・・・・・・・・・・・ P.26
55 伝票（3伝票制） ・・・・・・・・・・・・・・・・ P.27
56 伝票（3伝票制） ・・・・・・・・・・・・・・・・ P.27
57 伝票（3伝票制） ・・・・・・・・・・・・・・・・ P.27
58 伝票（3伝票制） ・・・・・・・・・・・・・・・・ P.27
59 伝票（3伝票制） ・・・・・・・・・・・・・・・・ P.28
60 伝票（3伝票制） ・・・・・・・・・・・・・・・・ P.28
61 伝票（3伝票制） ・・・・・・・・・・・・・・・・ P.28
62 仕訳日計表 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P.29
63 証ひょう1 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P.30
64 証ひょう2 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P.30
65 売上原価の算定 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ P.30
66 売上原価の算定 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ P.30
67 売上原価の算定 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ P.31
68 貸倒れ・貸倒引当金 ・・・・・・・・・・・・・・ P.31
69 減価償却 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P.31
70 有形固定資産の仕訳 ・・・・・・・・・・・・・・ P.32
71 有形固定資産の訂正仕訳 ・・・・・・・・・・ P.32
72 費用・収益の決算整理 ・・・・・・・・・・・・・ P.32
73 収益の決算整理（訂正仕訳） ・・・・・・・・ P.33
74 現金・現金過不足の処理 ・・・・・・・・・・・ P.33
75 現金の処理 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P.33
76 現金過不足の仕訳 ・・・・・・・・・・・・・・・ P.33
77 当座借越の振替え ・・・・・・・・・・・・・・・ P.34
78 貯蔵品の処理 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P.34
79 消費税の処理 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P.34
80 法人税等の処理 ・・・・・・・・・・・・・・・・ P.34
81 決算整理後残高試算表の作成 ・・・・・・ P.35
82 精算表1 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P.36
83 精算表2 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P.37
84 精算表3 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P.38
85 精算表4 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P.39
86 精算表5 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P.40
87 精算表6 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P.41
88 帳簿の締切り ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P.43
89 決算振替仕訳 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P.43
90 商品に関する各勘定の締切り ・・・・・・・ P.44
91 損益計算書と貸借対照表の作成 ・・・ P.45
92 損益計算書と貸借対照表の作成 ・・・ P.46
93 損益計算書と貸借対照表の作成 ・・・ P.47
94 損益計算書と貸借対照表の作成 ・・・ P.48

❶ 簿記の目的

テキスト▶P.4　解答・解説▶P.124

1.（　　）とは、企業の（　　）を帳簿に記入する技術のことである。 企業はこの帳簿に基づき、一定期間の（　　）を明らかにする（　　）と一定期日の（　　）を明らかにする（　　）を作成する。

2.（　　）は、（　　）と（　　）を対比させ、当期純利益を表示する。

3.（　　）は、（　　）と負債および（　　）を記載する。

❷ 損益計算書の作成

テキスト▶P.4　解答・解説▶P.124

損　益　計　算　書

東京株式会社　　自××年４月１日　至××年３月31日　　（単位：円）

費用の部	金額	収益の部	金額
給料		受取手数料	
当期純利益			

❸ 貸借対照表の作成

テキスト▶P.4　解答・解説▶P.124

貸　借　対　照　表

東京株式会社　　××年４月１日現在　　（単位：円）

資産の部	金額	負債・純資産の部	金額

❹ 損益計算書・貸借対照表の作成

テキスト▶P.4　解答・解説▶P.124

損　益　計　算　書

横浜株式会社　　自××年４月１日　至××年３月31日　　（単位：円）

費用の部	金額	収益の部	金額
売上原価		売上高	
当期純利益			

貸　借　対　照　表

横浜株式会社　　××年３月31日現在　　（単位：円）

資産の部	金額	負債・純資産の部	金額
現金			
		繰越利益剰余金	

❺ 仕　　訳

テキスト▶P.6　解答・解説▶P.125

日付	借方科目	金額	貸方科目	金額
3／5				
12				
25				
31				

❻ 仕　　訳

テキスト▶P.7　解答・解説▶P.125

日　付	借　方　科　目	金　　額	貸　方　科　目	金　　額
4／2				
5				
12				
18				
20				
25				
27				
5／7				

HINT

4月12日　借入金の返済によって、借入金という債務が減少する。
　　これは負債の減少となる。また、支払った利息は費用になる。
5月７日　貸付金を回収することによって、貸付金という債権が減少する。
　　これは資産の減少となる。また、受け取った利息は収益となる。
なお、両仕訳とも借方もしくは貸方の勘定科目が複数になるが、仕訳の借方、貸方の合計金額は貸借平均の原則によって同額となるので、チェックをすること。

❼ 勘定への記入

テキスト▶P.10　解答・解説▶P.126

現　　金

借　入　金

給　　料

受取手数料

❽ 仕訳と勘定への記入

テキスト▶P.10　解答・解説▶P.126

日　付	借　方　科　目	金　　額	貸　方　科　目	金　　額
6／5				
12				
18				
20				
25				
27				

現　金	
500,000	

備　品	

借入金	

支払利息	

受取手数料	

給　料	

水道光熱費	

広告宣伝費	

HINT

6月12日の転記に注意する。仕訳の貸方側に対する借方側の相手勘定科目が2つとなるため、「諸口」と記入することになる。

❾ 合計残高試算表

テキスト▶P.13　解答・解説▶P.127

合計残高試算表

×1年6月30日　(単位：円)

借方 残高	借方 合計	勘定科目	貸方 合計	貸方 残高
		現金		
		備品		
		車両運搬具		
		借入金		
		資本金		
		繰越利益剰余金		
		売上		
		受取手数料		
		仕入		
		給料		
		水道光熱費		
		消耗品費		
		広告宣伝費		
		支払利息		

⑩ 商品売買

テキスト▶P.15　解答・解説▶P.127

日　付	借　方　科　目	金　　額	貸　方　科　目	金　　額
1／5				
14				
29				

仕　　入	

売　　上	

当月総売上高　¥＿＿＿＿　当月返品高　¥＿＿＿＿　当月純売上高　¥＿＿＿＿

⑪ 商品売買

テキスト▶P.16　解答・解説▶P.128

日　付	借　方　科　目	金　　額	貸　方　科　目	金　　額
2／4				
8				
15				
18				
20				

⓬ 合計残高試算表

テキスト▶P.16　解答・解説▶P.129

日付	借方科目	金額	貸方科目	金額
2/1				
5				
7				
9				
13				
16				
18				
20				
21				
23				
25				
26				
28				

合計残高試算表

××年2月28日　(単位:円)

借方 残高	借方 合計	勘定科目	貸方 合計	貸方 残高
		現金		
		売掛金		
		繰越商品		
		買掛金		
		資本金		
		繰越利益剰余金		
		売上		
		仕入		
		給料		
		水道光熱費		
		発送費		
		雑費		